

## 【鯖江市】 校務DX計画

文部科学省が公表した「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言や「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果等を踏まえつつ、当市においては具体的な取り組みを次のとおり定める。

### 1. 校務支援システムのクラウド化

令和2年度に県内統一の「統合型校務支援システム」を導入したことで、市町村間をまたぐ異動となっても操作に戸惑うことなく、成績処理や指導要録作成、グループウェアを活用した情報共有を行うことが可能となっている。今後においては、出欠確認や保護者連絡アプリなど汎用クラウドツールと連携し、資料のペーパーレス化、教職員の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活発化できる環境を構築するため、パブリッククラウド上での運用を前提とした校務支援システムの早期クラウド化を目指す。

### 2. FAX及び押印の見直し

鯖江市では、校務支援システム内のグループウェア機能や市内共有サーバーにより、学校-学校間、市教育委員会-学校間の文書連絡・資料送付に活用している。また、教職員1人1人に業務用のメールアドレスを付与しており、外部との連絡に活用している。

一方で、令和5年12月に文部科学省より発出された「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」に基づく自己点検結果の報告によると、保護者・外部とのやりとりで押印・署名が必要な書類があり、クラウド環境を活用した校務DXを大きく阻害していることが指摘されている。

そのため、鯖江市においては、令和4年3月に市教育委員会と学校とのやり取りにおける書類の押印を見直した一方で、現在でも市教育委員会と学校との間で、一部紙ベースやFAXでの資料配布・提出を学校に求めるケースが見受けられる。

緊急連絡や教育ネットワークの不具合時、また学校からFAXしか連絡手段が無い一部の事業者とのやりとり、FAXのほうが電子メール等より効率的な場合など一部を除き、FAX及び押印の原則廃止に向けて、市教育委員会から慣行の見直しを依頼するなど、継続的に働きかけを行う。あわせて、各学校に対して、外部へ児童生徒の個人情報など機微な情報を送信する際の注意事項等について周知啓発する。

### 3. ペーパーレスの推進

これまで、鯖江市では、教職員の校務において、校務サーバー等に保存した電子データを閲覧したり、校務支援システムで情報を共有したりしてきた。また、保護者連絡アプリによる教員と保護者間の連絡のデジタル化により、ペーパーレス化を推進してきた。

今後は、学校間をまたぐ会議等においても、授業用端末及びクラウドサービスの活用により、会議資料のペーパーレス化を一層推進していく。

#### 4. デジタル採点システムの活用

ペーパーレス化が進む一方で、学校現場では紙のテストの採点業務が教員の負担になっている。デジタル採点システムを導入している先進自治体の取組を参考とし、ICTを活用した採点業務の効率化について導入を検討していく。